

TICKET

(Technology and International Cooperation by Kansai University Education Team)



DATA

● 主な連携先・メンバー

フィリピン国レイテ州の公立小学校／独立行政法人国際協力機構（JICA）／派遣中の青年海外協力隊（JOCV）

● 活動地域

フィリピン国レイテ州タナウン地区

● 活動資金

本活動では、活動費・航空券代・現地での生活費などかかる費用は基本的に学生の自己負担で行なっている。

活動の目的

- 1 教員が学校教育で活用できるソフトウェアの技術およびその活用法の知識を身に付けること
- 2 教員がICTを活用した授業実践を行えるようになること

連携にいたる経緯

本活動は、2008年度フィリピン国マルロス州の小学校教員を対象に、ICT教育の推進を目指し始まった。2016年度、JICAと小学校教育分野の発展を目指し調整を行い、レイテ州に派遣されている青年海外協力隊と協働して、タナウン地区のICT教育を推進することとなった。

活動内容

まず、大学の長期休暇を利用して2017年8・9月に現地に渡航し、教員のニーズ調査及びICT教育に関する技術・知識の調査を行なった。帰国後は、現地調査で明らかになったニーズ及び問題を解決する教員研修の企画・準備を行なった。研修の準備段階では、テレビ会議システムを通して定期的に現地のJOCVと会議を行い、現地の状況に合わせた研修内容や活動日程の調整を行なった。そして、2018年2・3月に約1ヶ月間現地に渡航し、①教員を対象としたソフトウェア研修（PowerPoint、Excel、Google Forms、Movie Maker）を行い、その技術を身につけてもらった。また、②児童を対象にGoogle slidesを活用し活動先の学校とバングラデシュ国や同エリア内の他学校と繋ぐ交流学習を行い、教員に授業でICTを活用するメリットを体感してもらった。さらに、③JOCVの活動で使用する映像教材の作成を行なった。活動の成果は、フィリピンの教育省・JICA関係者・活動先の学校などに報告書の提出やプレゼンテーションを行なった。



活動の成果

- 1 教務・授業内で活用できるソフトウェアの研修の企画・運営
- 2 Power PointやAR技術を用いた防災教育の企画・運営
- 3 テレビ会議システムを用いたバングラデシュとの交流学習の企画・運営

今後の課題・目標

- 1 教員が使えるようになったICTを活用して授業実践を行えるようになること
- 2 教員がICT教育に関する知識（学校教育でICTを活用するメリット・デメリット、活用する際の留意点など）を身につけること

● 教員紹介



総合情報学部 教授 久保田 賢一（くぼた けんいち）

「学ぶことは生きること」をモットーに、学生が生き生きと活動することを通して社会貢献する学習環境のデザインを研究している。その方法として、教室の外に出て、地域の人たちと連携して活動をするプロジェクト型のアクティブラーニングを推進している。学生が主体的・自律的に活動するためには、上級生と下級生の連携、外部の人たちとの協働が欠かせない。国内だけではなく、海外の大学やNGOと協働して、現実社会の問題解決に取り組む。